

現代社会（公民科）学習指導案

〇〇高等学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 学年 第1学年
- 2 教材 高等学校 新現代社会
- 3 単元名 私たちの生きる社会「現代社会の諸課題」
- 4 単元目標 幸福、正義、公正などの考え方について理解させるとともに、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。
- 5 単元指導計画
 - (1) 現代の諸課題とその解決に向けての考え方（幸福・公正・正義）・・・1時間
 - (2) 地球温暖化問題（テーマ：環境）・・・1時間
 - (3) エネルギー問題（テーマ：環境）・・・1時間
 - (4) 臓器移植問題（テーマ：生命）・・・1時間
 - (5) だれにワクチンを打つのか（テーマ：生命）・・・1時間（本時）

6 単元の評価計画（評価規準）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・生命に関する課題を意欲的に追求している。	・生命に関する課題について、幸福、正義、公正、愛の観点から多面的・多角的に考察し、自分としての考えを持ち、適切に表現している。	・資料をしっかりと読み取り、課題について取り組んでいる。	・生命に関する課題を考える上で、幸福、正義、公正、愛について理解し、その知識を身につけている。

7 本時の目標

- ① 生命を題材に、幸福・正義・公正・愛とはなにか、考える。
- ② アクティブ・ラーニングの手法を利用して、自らがどのようにして課題を解決するか、どのような価値観を重視していきっていくか、考える。
- ③ アクティブ・ラーニングの手法を利用することで、生徒の言語活動の充実を図る。

「アクティブ・ラーニング」の授業手法についての考え方

専門職修士論文（早稲田大学大学院教職研究科）として、早稲田大学キャリア教育研究第5巻（早稲田大学キャリア教育研究会，2014年）に掲載された「高等学校公民科において『模擬裁判』で行う人権教育－『アクティブ・ラーニング』の手法を用いて－」に自分としてのアクティブ・ラーニングの考え方が示してある。以下は、その論文の第2章第4節である。

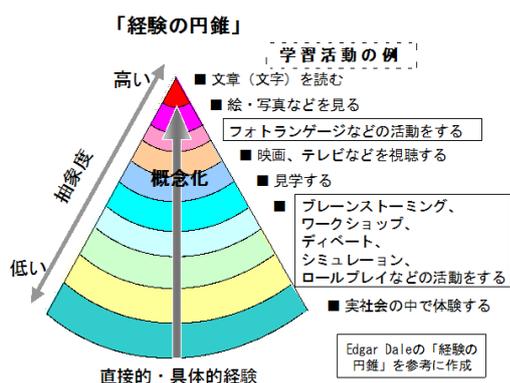
第4節 「アクティブ・ラーニング」の開発

アクティブ・ラーニングについては、中央教育審議会答申（2012）で、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と広い意味で定義している。答申では、大学教育への導入を求めている⁶。そして、高校教育でも長束（2013）⁷、菅原（2013）⁸の実践事例が報告されるようになっている。

三村（2013）は、アクティブ・ラーニングの根拠となるラーニング・ピラミッドの原型となっているのは、エドガー・戴尔が開発した「経験の円錐」であり、「直接的・具体的経験から言語で象徴される経験へと学びが進むことを暗示している。」とし、「抽象的な概念の理解を可能にするために、共同的な活動が基盤になると解釈するのが妥当でないだろうか。」としている⁹。相原（2007）は、人権教育の〔第二次とりまとめ〕で「児童生徒が自分で〔感じ、考え、行動する〕という主体的・実践的学習が必要」とする根拠として戴尔の「経験の円錐」を挙げ、学習の目的は概念の形成であり、参加・体験から観察による経験、象徴による経験の抽象化が行われ、概念が形成されるとして、人権教育にアクティブ・ラーニングの考え方を取り入れている¹⁰（図表1）。

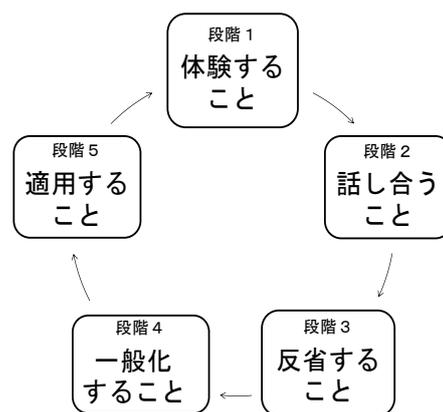
「経験の円錐」は、縦軸において上にいくほど学びの深さを表し、横軸において学習効果を現すと考える。疑似的なものも含めて実社会への体験、共同的な学習により意欲、関心を高め、体験の中でさまざまなことを考え、振り返ることで、能力や態度の育成が促進すると考える。図表2に示した人権教育の参加体験型学習の「体験」「話し合い」「反省」「一般化」「適用」というサイクルでは、「体験」を「一般化」し「自己の行動や態度への適用」へ進んでいく。このサイクルは、まさにアクティブ・ラーニングの考えと適合する。人権教育において活用するアクティブ・ラーニングを参加体験型の学習により関心・意欲を高め、活動を周囲とともに振り返ることにより知識理解を得るだけでなく、能力や態度も自分のものとする学習形態と規定し、「アクティブ・ラーニング」と表記する。

図表1 「経験の円錐」



相原誠二（2007）¹¹

図表2 参加体験型学習のサイクル



「第3次とりまとめ」（2008）¹²

²相原誠二，2007，「人権意識を高める参加体験型学習の進め方へー「仕事と人権」の学習を通してー」，愛媛県総合教育センター平成18年度研究紀要。

³文部科学省，2013，「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議，「人権教育の推進に関する取組状況の調査結果について」。

⁴千葉県教育委員会，2013，「平成24年度 学校人権教育の推進に関する実態調査」。

⁵三村隆男，2013，「キャリア教育と道徳」道徳教育，NO.664。

⁶中央教育審議会，2012，「新たな未来を気づくための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」用語集，p.37。

⁷長束倫夫，2011，「主権者としての意識を高め、社会参画するための力を育成する授業実践ー公民科での参加型学習を通してー」，平成21，22年度千葉県高等学校教科研究員報告。

⁸菅原大介，2013，「アクティブラーニングで授業を活性化～アウトプットを意識させた授業展開の工夫～」，千葉教育 NO.216，pp.27-29。

⁹三村隆男，2013，「生き方につながる楽しい授業」学校運営，NO.624。

^{10, 11}相原誠二，2007，「人権意識を高める参加体験型学習の進め方へー「仕事と人権」の学習を通してー」，愛媛県総合教育センター平成18年度研究紀要。「相原は原文で戴尔と表記している。」

¹²文部科学省，2008，人権教育第の指導方法等に関する調査研究会議，「人権教育の指導方法等の在り方について（三次とりまとめ）」

8 本時の学習展開

時間	学習内容 学習活動	学習活動の支援・指導上の留意点 観 点 別 評 価
導入 5分	<p>・本時の学習課題の確認 (本時の学習が幸福・正義・公正について考えることであることを理解する。)</p>	<p>・これまでに授業で扱った幸福・正義・公正の考えや関係する題材について触れて、興味を喚起する。 ・4人1班で話し合うことを指示し、机を4人1組にする。</p>
展開 40分	<p>1 ケーススタディを読む。 ・どんなことを考えるのか、本時のケーススタディを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><ケーススタディ> ある町のお祭りで、5人の人間が猛毒を持つ蛇にかまれた。運び込まれた病院において血清は1つ、30分以内に血清を打たないと死んでしまうという状況で、医師としてあなたはどうするか。今のところ30分以内に血清は届かない。 かまれた5人は ① 小学校3年生男子 ② 20代既婚女性 ③ 30代既婚女性 ④ 30代市役所職員 ⑤ 60代男性</p> </div>	<p>・プリント1とワークシートを配付。 ・ケーススタディの内容を理解しやすいように説明する。 → ケーススタディの内容を理解し、興味を持つことができたか。(観察) 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 → 資料の内容をしっかりと理解することができたか。【技能】</p>
	<p>2 スタディ1：決め方について ・どのように血清を打つのかを決めるのか、5つの選択肢から理由とともに考える。 ・班で話し合い、班の結論を出す。 ・それぞれの班の結論を共有する。 * 選択肢ではなく、「どのような方法が考えられるか、その理由も合わせて考えなさい。」というように最初から考えさせてもよい。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><選択肢> A 医師である自分で順番を決める。 B 当事者5人の話し合いで順番を決める。 C くじで決める。 D 病院理事会や院長など上司に決めてもらう。 E 全員分の血清が届くまで待つ。</p> </div>	<p>・選択肢を示し、選びやすいようにする。 ・ワークシートに理由とともに、どの方法を選択するのか、記入する。 ・各班にホワイトボードを配付し、班の中で、どの決め方にするか、話し合い、結論を出し、理由とともにホワイトボードに記入する。 → 自分なりに判断することができたか。 → 班で話し合って、一人一人の意見を尊重した上で、結論をだすことができたか。 (ワークシート、ホワイトボード、発表) 【思考・判断・表現】</p>

<p>3 スタディ 2 : 誰に打つのか</p> <p>・医師である自分が順番を決めることになったと仮定して、どうするか考え、選択して、その理由をワークシートに記入する。</p>	<p>・プリント 2 (患者についての新たな情報) を提供して、考える題材とする。</p> <p>→ 自分なりに判断をすることができたか。</p> <p>→ 文章で自分がなぜその患者にうつことにしたのか、まとめることができたか。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><患者情報></p> <p>① 小学校 3 年生男子 サッカークラブのエース将来嘱望。父親が医師に 1000 万の提供を約束。</p> <p>② 20 代既婚女性 新婚 1 年。夫と 2 人暮らし。妊娠 6 ヶ月。</p> <p>③ 30 代既婚女性 医師の夫と 2 人暮らしで愛し合っている。夫は担当医師 (つまりあなた)</p> <p>④ 30 代の市役所職員 お祭りの担当者。妻と子ども 2 人暮らし。妻は専業主婦。</p> <p>⑤ 60 代男性 大会社の元重役で資産家。医療機関に 1 億円の寄付を約束。</p> </div>
<p>4 スタディ 3 : 周りの人の意見を知り、自分の意見を再度考える。</p>	<p>・ 4 人 1 組になって、ワークシートを利用して他の人の意見に質問やコメントを書いていく。(1 人の意見に対して 2 分で書く)</p> <p>→ 他者の考えを理解できたか。</p> <p>→ 他者の考えに対して自分の考えを持つことができたか。</p> <p>(ワークシート) 【思考・判断・表現】</p> <p>・ 班のメンバーの自分の考えに対するコメントを読んで、何を考えたか、簡単に意見交換する。</p> <p>→ 自分の意見を他者に伝えられたか。</p> <p>(観察) 【思考・判断・表現】</p> <p>・ コメントを読み、意見交換をした上で、考えたことを記入する。</p> <p>→ 他者の意見を認めたり、受け入れたりすることができているか。</p>
<p>スタディ 4 (幸福か、正義か、公正か)</p> <p>・ 自分の選択が幸福なのか、正義なのか、公正なのか、「幸福、正義、公正」の視点で自分の選択について振り返る。</p>	<p>・ 生徒を指名し、振り返りを一緒に確認しながら考える。</p> <p>→ ・ 幸福、愛と正義、公正が必ずしも一致しないことに気がつくか。</p> <p>→ ・ 自分なりにしっかり考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート)</p>

ま と め 5 分	スタディ5（自分の意見をまとめよう） ・自分はなぜそう思うか。理由とともに考える。	・型（カルタ）を提示して、それに合わせて答えさせるようにする。 → 他者との議論をもとに自分の考えを 考えることができたか。 【思考・判断・表現】（ワークシート）
-----------------------	--	--